

プラスチックごみ収集回数の 市民アンケート結果をお知らせします

令和6年4月から開始したプラスチックごみの分別収集について、実施から半年経過した時点での収集状況を確認し、今後の収集回数を検討するために実施したアンケートの結果をお知らせします。

詳しくは、本環境森林課(☎22114)へ。

アンケート実施の経緯

分別収集の回数は、1世帯当たり2週間で約1袋の排出が見込まれたことから、「月2回(2～3週間で1回の頻度)」としています。分別収集開始から半年経過した状況から、今後の適正な収集回数を検討するため、11～12月の期間に市民アンケートを実施しました。

アンケート方法

収集回数を増やした場合と減らした場合の二酸化炭素排出量や収集費用などの比較を示した上で、4つの選択肢を設け、対面による聞き取りや市公式LINEでのアンケートを実施しました。

アンケート結果

総回答数994人のうち、61.5%の人が「現在の月2回のままで良い」との回答でした(別表のとおり)。

当面は、現在の収集回数を維持しつつ、毎月のプラスチックごみ収集量の推移や販売店における食品トレーの店頭回収の状況などを踏まえて、今後も収集回数の検討を継続していきます。引き続きリサイクルにご協力をお願いします。

詳しくは、市ホームページ(ID=11093)を確認してください。



(別表)

市民アンケートの実施結果

回答の選択肢	①現在の月2回のままで良い	②収集費用や収集車両からの二酸化炭素排出量が増えても、収集回数を増やした方が良い	③収集費用や収集車両からの二酸化炭素排出量を減らすため、収集回数を減らした方が良い	④分からない	合計
回答者の数	611人	201人	95人	87人	994人
回答の割合	61.47%	20.22%	9.56%	8.75%	100%

気付いてつなげる資源の循環 バイオマスって何？

バイオマスとは

バイオマスとは、動植物由来の再生可能な資源のことです。バイオマスには、堆肥となる家畜の排せつ物や、燃料となるまきなどがあります。石油や石炭などの化石資源は一度使うと無くなりますが、バイオマスは、持続的に利用できます。

資源活用のために

日常生活の中で出る生ごみや廃食用油、紙類などはバイオマス資源ですが、その多くが十分に活用されていません。

少しの意識で、日常生活の中でもバイオマス資源の活用に取り組むことができます。

①生ごみの堆肥化

家庭で出る生ごみを、コンポストや電動生ごみ処理機などを用いて堆肥化することで、家庭菜園やガーデニングの肥料として有効に活用でき、ごみの減量化にもつながります。

②廃食用油の拠点回収

廃食用油(家庭から出る天ぷら油など)は、植物性油に限る。は、市役所本庁舎、行政センター、公民館などで拠点回収を行っています。廃食用油は、最終的にバイオディーゼル燃料として再生され、車両の燃料などに利用されます。

③古紙類の回収

古紙類は、地元の自治会や育成会などが実施する資源ごみの集団回収で取り扱います。回収された古紙類は、再び紙類の原料として活用されています。

資源循環への貢献

未活用の廃棄物をバイオマスとして利用することは、地域の活性化や地球温暖化の防止、廃棄物の減少へとつながり、持続可能な循環型社会の形成に大きく貢献します。

環境負荷の少ない社会の実現へ向け、私たち一人一人が自主的、積極的にバイオマスの活用に取り組みましょう。

問合せ先 本環境森林課(☎22114)

ホームページID 1351